



異文化交流

北区の特徴の一つは、大学や専
そのため区内には、多くの外国人
で暮らしており、さまざまな形で

遊びも学びも一緒に

北海道大学に近い鉄西地区や幌
北地区には、多くの外国人留学生
やその家族が暮らしています。こ
れらの地区では、留学生の子ども
と日本人の子どもと一緒に遊ぶ光
景がよく見られます。そんな場所
の一つが、幌北児童会館です。

「ここに遊びに来る子どもたち
の三割以上が地域に住む外国人留
学生の子どものたちなんです。子ど
もたちにとっては、日本人だろう
が外国人だろうが関係ないよう
すね。すぐに打ち解けて、仲良く
遊ぶようになります」と教えてく
れたのは、同館館長の菅井麻智恵
さんです。菅井さんが同館に着任
したのは、今から三年前のこと。
そのときは、どのように外国人の
子どもたちに接すれば良いのか、
少し戸惑いを覚えたそうです。
そんな菅井さんの戸惑いを解消



▲ここでは日ごろから、外国人留学生の子どもたちと地域の子どものたちが一緒に遊んでいます

するヒントになったのは、すぐに
打ち解け合う子どもたちの柔軟な
姿勢でした。「そんなに意識せず
に、どの子どもと同じように接すれば
良いということ、逆に子どもたち
に教えられましたね」と、菅井
さんは打ち明けてくれました。

そこに聞こえてきた元氣な笑い
声。その笑い声は、同館でよく遊
ぶという中国出身の温旭華（ウエ
ン・シユウカ）ちゃんのものでし
た。旭華ちゃんは、「ここに遊び
に来るのがとても楽しみ」と話し
ます。また、旭華ちゃんを迎えに
来たお父さんの温旺榮（ウエン・
ワンロン）さんは、「この児童会館
のおかげで、娘はたくさん友達が
できました。日本語もすぐに上手
になったんです」と、同館を通じ
て、子どもがすんなりと地域に溶
け込むことができたことを喜んで
いました。

何か特別なことを行うことだけ

◀「これからも児童
会館にはお世話になり
ます」と話す温さ
ん親子



▶「ここでの体験によって、
子どもたちが視野を広げて
くれるとうれしいですね」
と、菅井さん



▲お巡りさんの仕事をみんなで学んだ幌北児童会館に通う子どもたち。最後に感謝状を手渡しました

◆ ◆
留学生をはじめとする外国人と
地域の人たちが気軽に交流するこ
とで、多様な価値観や異文化に対
するお互いの理解は深まります。
こうした理解は、私たちの暮らし
やまちの魅力を見つめ直すことに
もつながります。その中で、自分
自身やまちの新たな可能性が見つ
かるかもしれませんね。